

9月は台風シーズン

横浜を豪雨から守る

浸水を防ぐ！

雨に強いまちづくり

都市部では、激しい雨などにより排水が追いつかず、下水道から道路や住宅地に雨水があふれる「内水氾濫」が発生しています。

横浜市では、大量の雨水を集め、河川や海へ安全に流すための「雨水幹線」や、一時的に雨水を貯める「雨水調整池」などの整備を進めています。

強化前

下水道施設の排水能力を超えると、豪雨の際に内水氾濫が起こる危険性があります。



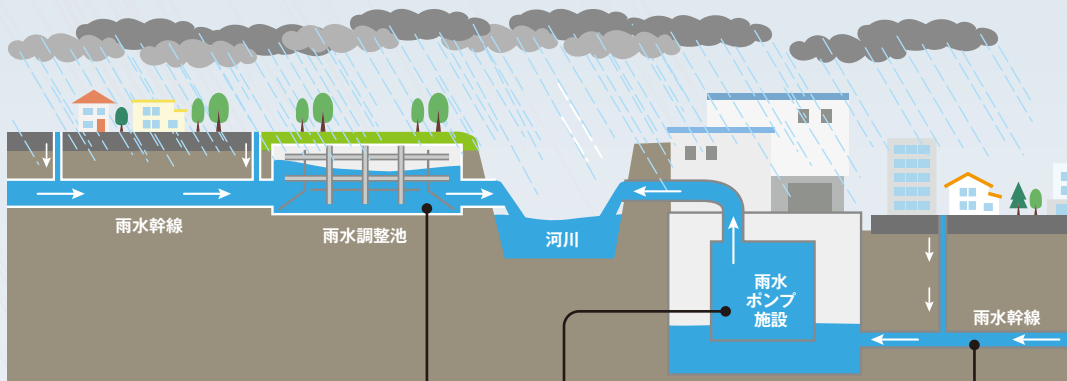
今年発生した台風でも
浸水を防ぎました！

今年6月の台風6号では、市内の広い範囲で大雨となりました。雨水幹線・雨水調整池などの下水道施設と河川施設を合わせ、合計**25mプール約2,000杯分**の雨水を貯め、浸水を防ぎました。

今後の台風や大雨の際も、こうした施設が雨水の受け皿となり、市民の安全を守ります。

強化後

下水道施設の排水能力を強化することで、内水氾濫が起こりにくくなります。



雨水調整池（飯島雨水調整池）



大雨が降った際に一時的に雨を溜めます。

雨水幹線



大量の雨水を集め、海や川への排水を速やかに行います。

雨水ポンプ施設



雨水調整池などに溜まった雨水を汲み上げ、海や河川に排出します。

命を守るために

いざという時に備えよう

ハザードマップを活用しよう

大雨による浸水が起こった際、速やかに避難ができるように、自宅や会社・学校がある場所の危険性を確認しましょう。



詳しくはこちら



横浜市水防災情報をチェックしよう

川の様子を直接見に行くのは危険です。「横浜市水防災情報」では、川の水位をカメラで見ることや、避難警戒水位情報の確認ができます。



詳しくはこちら

